

平成14年度(第8回)
千葉県臨床衛生検査技師会
病理検査研究班精度管理報告

病理検査研究班

東 和彦・中村 和昭・大木 昌二 西野 武夫
井浦 宏・中山 茂・青柳 正則・岸沢 充

精度管理実施要項

目的 : 染色の良否が問題ではなく、適正な処理法を身につけることを目的とする。

方法 : 固定材料を配布し、各施設の通常の方法で包埋・薄切・染色を行ない、アンケートと共に標本を回収。

材料 : 解剖例 (15% 緩衝ホルマリン固定) の肝臓

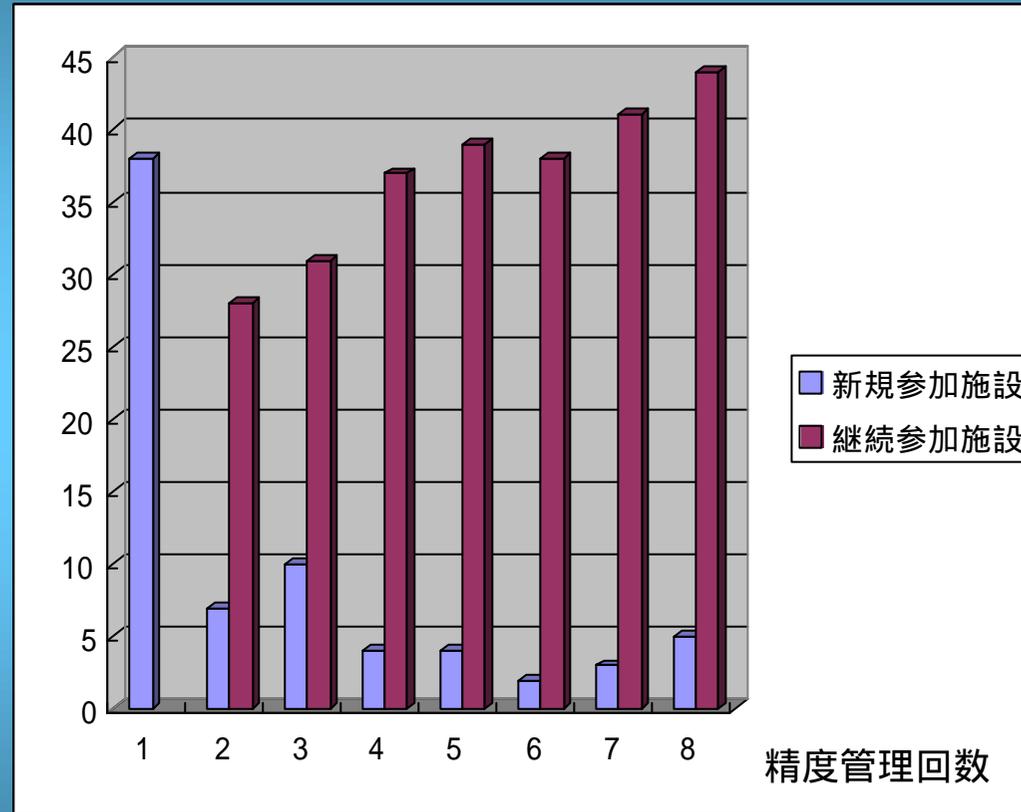
平成14年度病理検査研究班精度管理参加施設

参加施設44 (新規参加施設5)

国立千葉東病院
国立千葉病院
千葉社会保険病院
千葉市立病院
放射線医学研究所重粒子医科学センター
川崎製鉄健康保険組合千葉病院
千葉中央臨床検査センター
千葉労災病院
君津中央病院
総合病院国保成東病院
国立精神神経センター国府台病院
東京歯科大学市川総合病院
社会保険船橋中央病院
松戸市立病院
銚子市立総合病院
総合病院国保旭中央病院
千葉県立佐原病院
成田赤十字病院
安房医師会病院
亀田総合病院
千葉大学大学院医学研究院腫瘍病理学
化学療法研究所附属病院
千葉県循環器病センター
国立療養所下志津病院
千葉県救急医療センター
国保小見川総合病院
船橋市立医療センター
東葛病院
順天堂大学浦安病院
江東微生物研究所千葉支所
千葉市立海浜病院
(株)ガンリソ
東京歯科大学千葉病院
千葉徳洲会病院
東京慈恵会医科大学付属柏病院
千葉県こども病院
千葉西総合病院
帝京大学医学部付属市原病院
東邦大学医学部付属佐倉病院
千葉県がんセンター
国立がんセンター東病院
日本医科大学付属千葉北総病院
千葉大学医学部附属病院
千葉県済生会習志野病院

参加施設数の推移

施設数



精度管理回数

精度管理の実際

15%緩衝ホルマリン固定材料 (肝臓)

アンケート用紙 紙マップ

包埋

薄切

染色

研究班員による予備集計

研修会の開催 標本の供覧

精度管理実施染色

・HE染色

・PAS染色

・膠原線維染色

・鍍銀染色

標本の評価方法

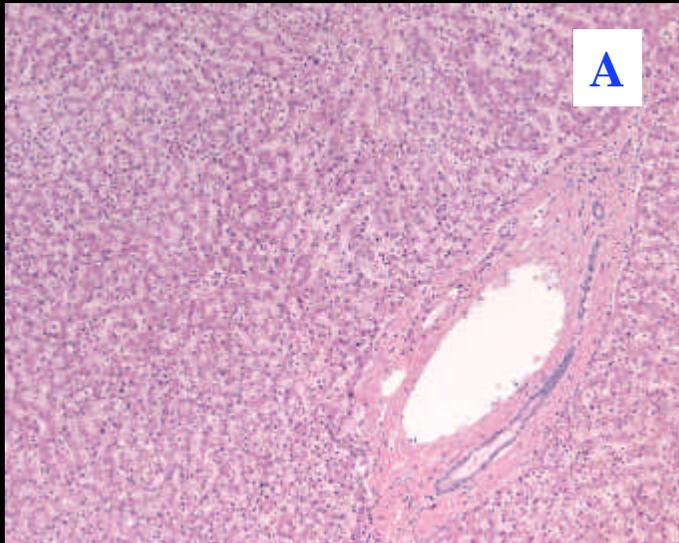
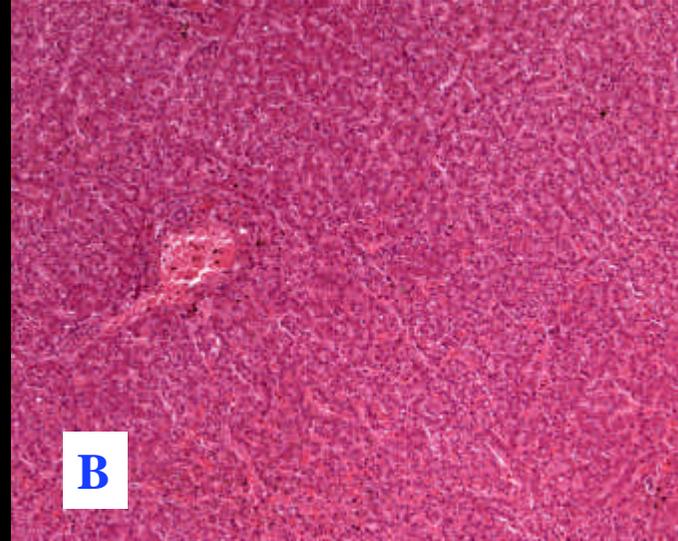
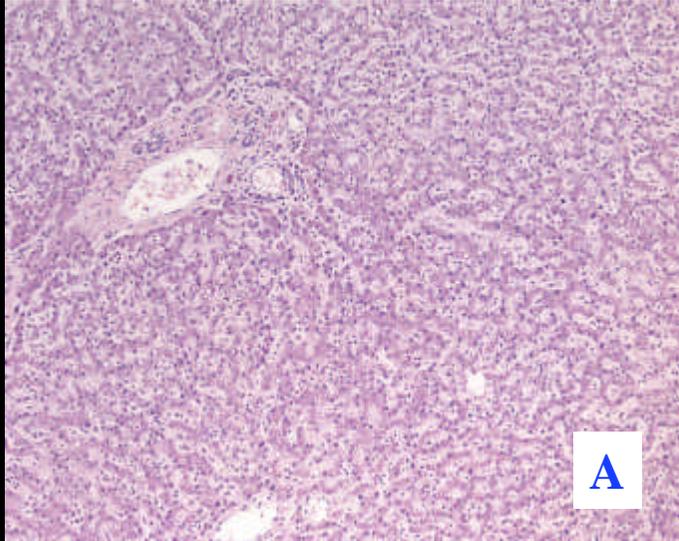
- 昨年度と同様に各評価項目を3点の配点として採点表を作成した。
- 評価基準は日本臨床病理学会認定病理技術士試験の採点を基準とした。
- 評価は病理検査研究班研修会にて参加者全員で行なうこととしているが、予備集計として研究班委員8名で鏡検し、評価点を算出した。
- 各染色の総合評価として、ABCの3段階評価も行なった。
但し、特殊染色においては目的物質の染色性の評価が1点の場合、他の項目の採点にかかわらずC評価とした。

総合評価表

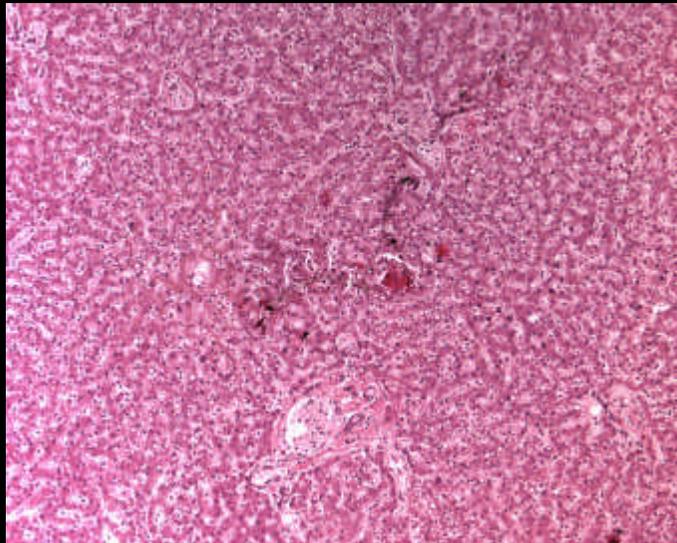
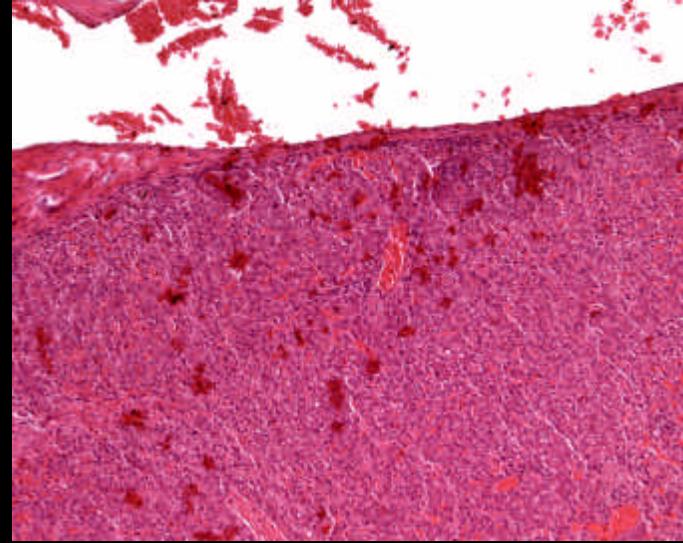
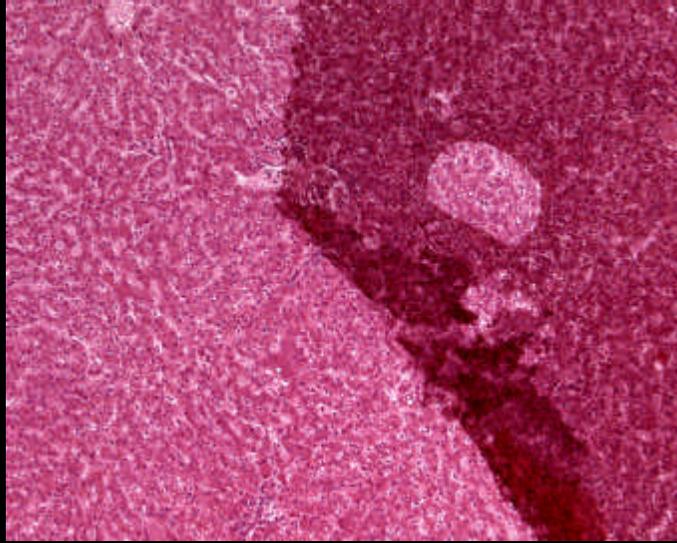
	A	B	C
HE染色	12~ 15	8~ 11	5~ 7
PAS染色	6	3~ 5	2
膠原線維染色	8~ 9	5~ 7	3~ 4
鍍銀染色	8~ 9	5~ 7	3~ 4

HE染色・標本評価表

評価項目	配点
薄切 (厚さ・均一性・皺・載せ位置)	3
ヘマトキシリンの染色性	3
エオジンの染色性	3
共染色の有無と程度	3
脱水不良の有無・封入操作	3
合計	15

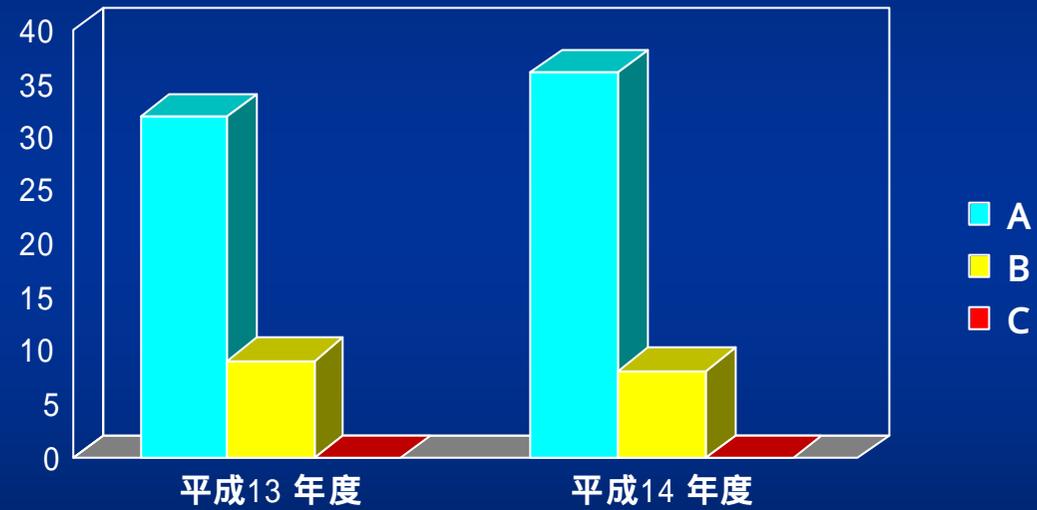


HE染色



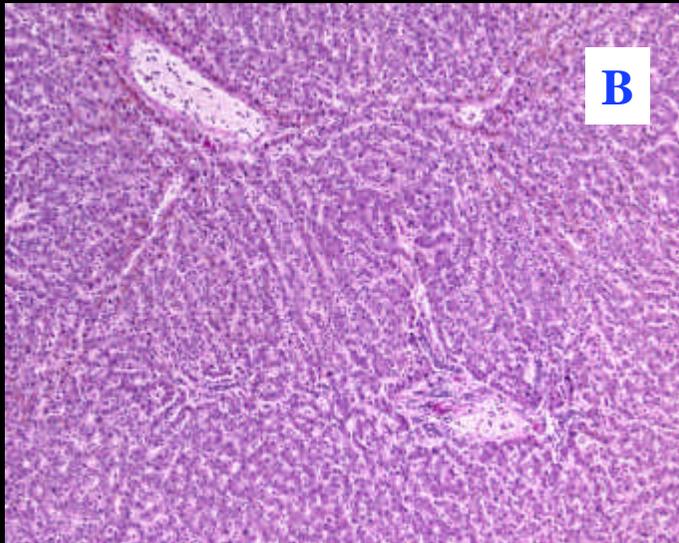
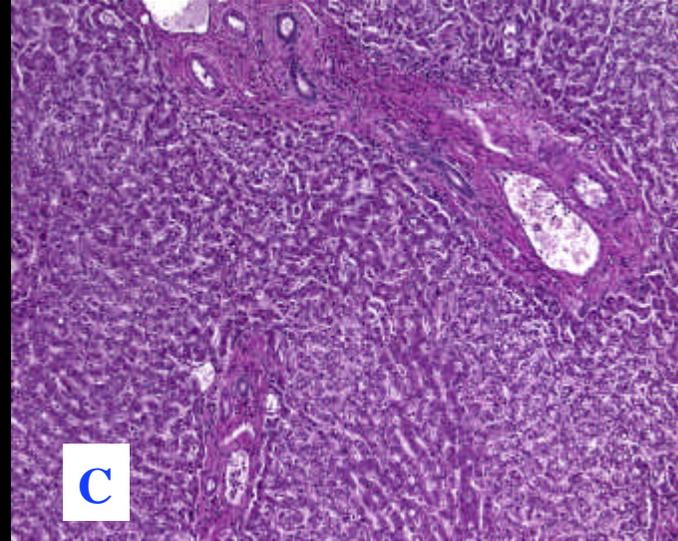
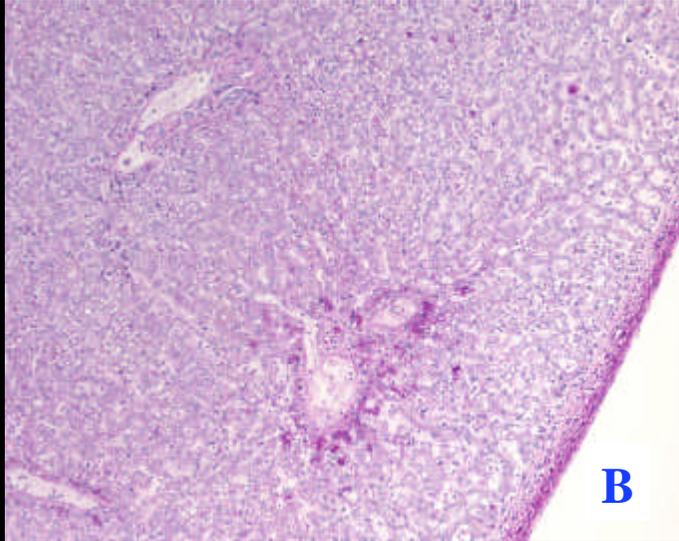
HE 染色 · 包埋? 封入操作

HE染色評価 (昨年度との比較)



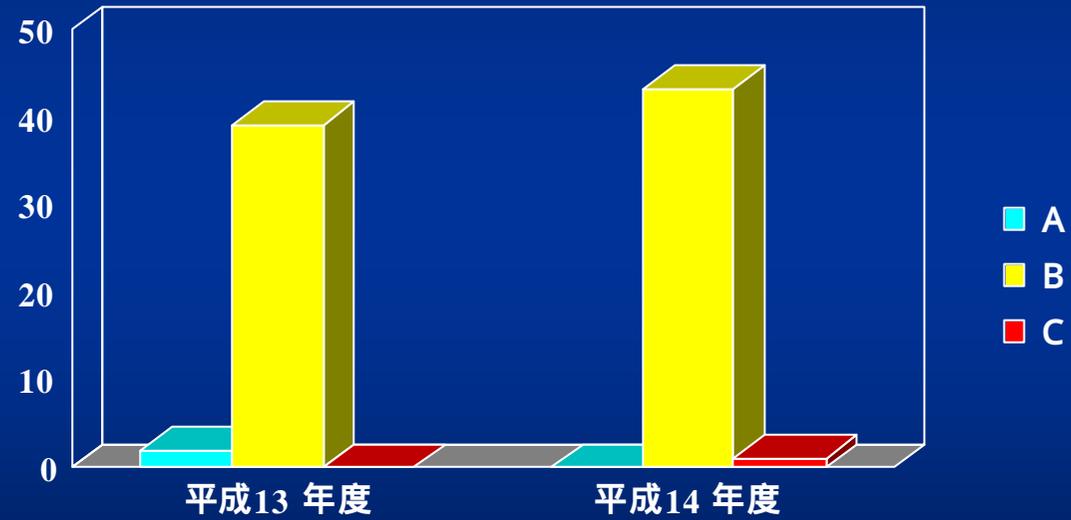
PAS染色・標本評価表

評価項目	配点
グリコーゲンの染色性	3
共染色の有無と程度	3
合計	6



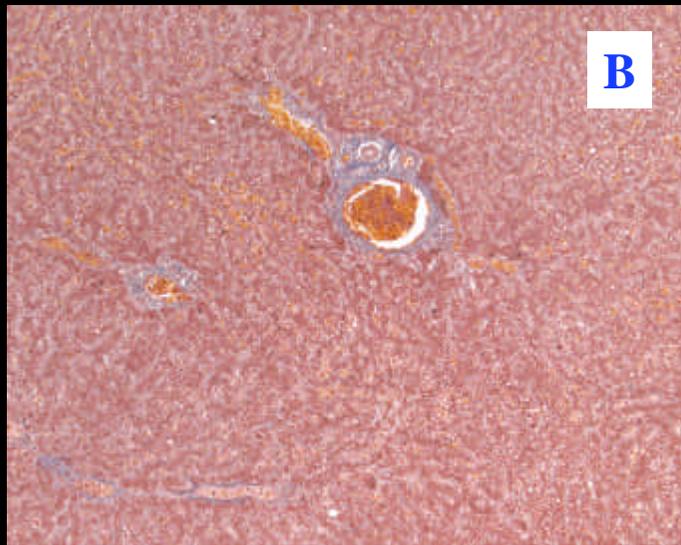
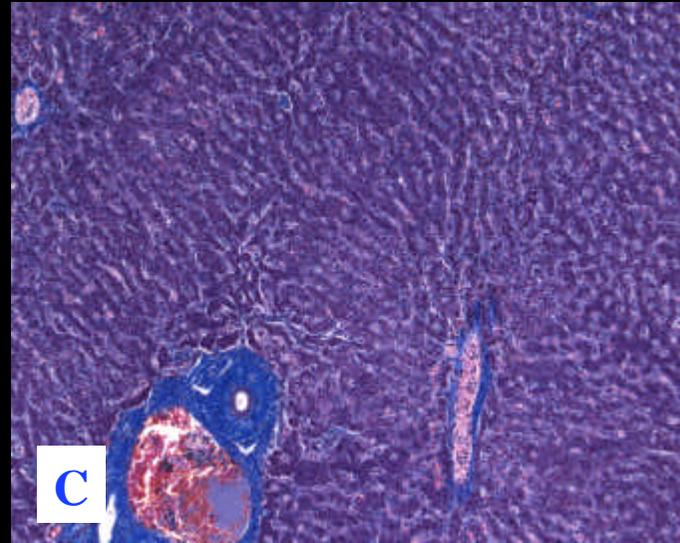
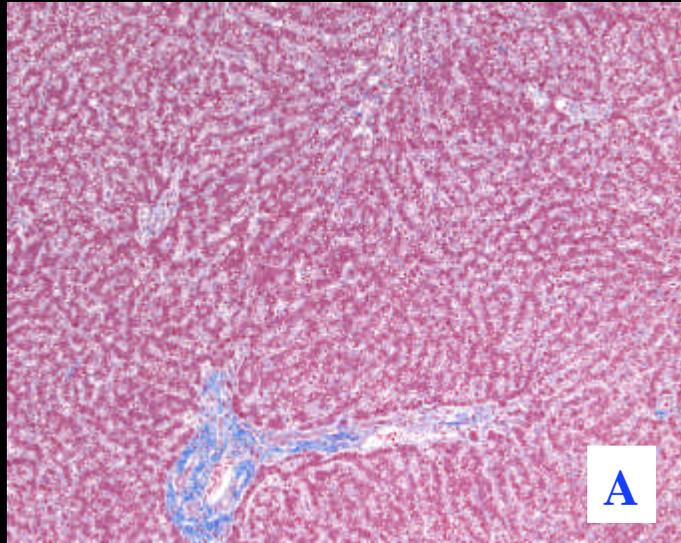
PAS染色

PAS染色評価 (昨年度との比較)



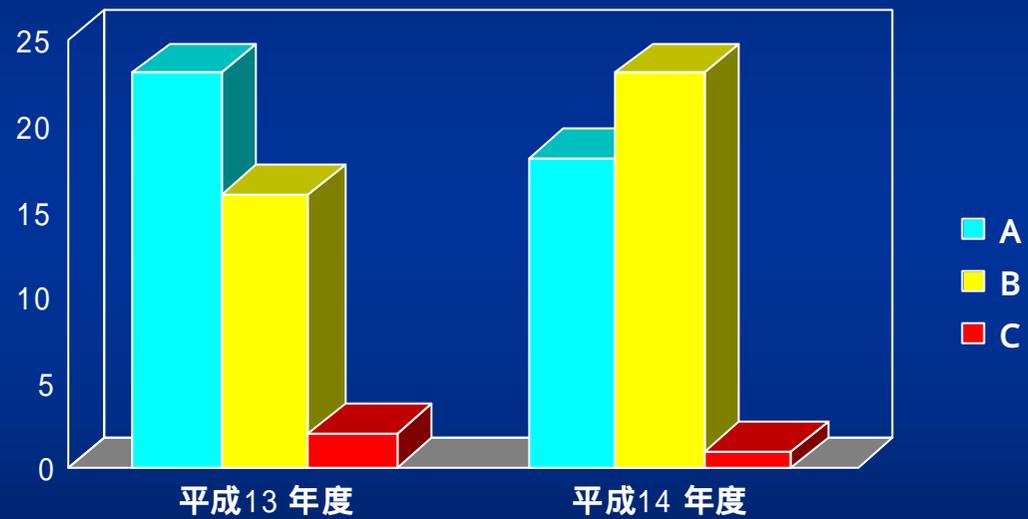
膠原線維染色 標本評価表

評価項目	配点
膠原線維の染色性	3
共染色の有無と程度	3
核の染色性	3
合計	9



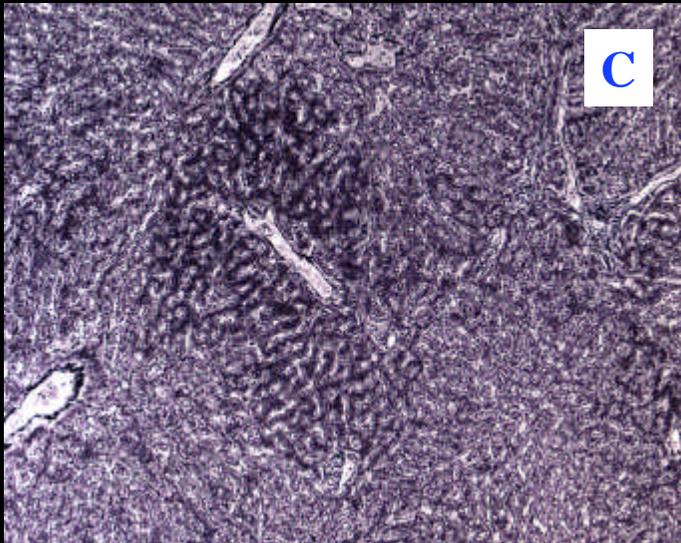
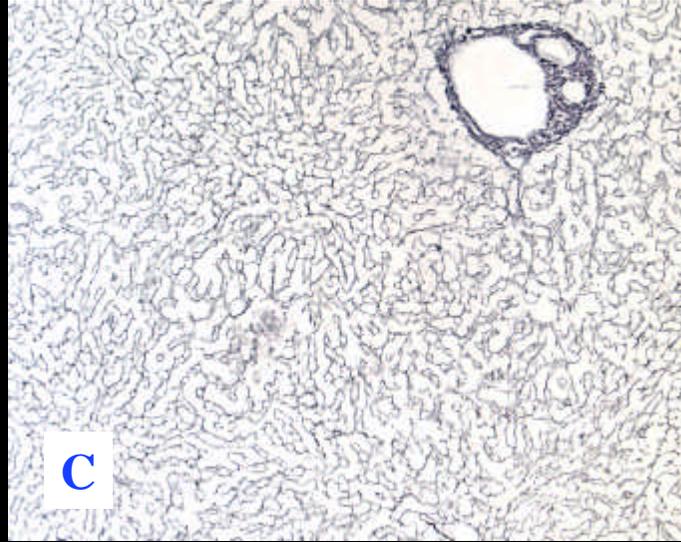
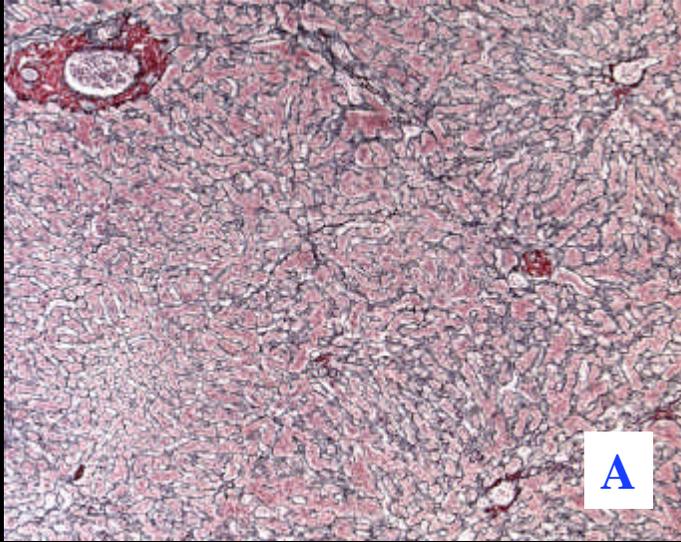
膠原線維染色

膠原線維染色評価 (昨年度との比較)



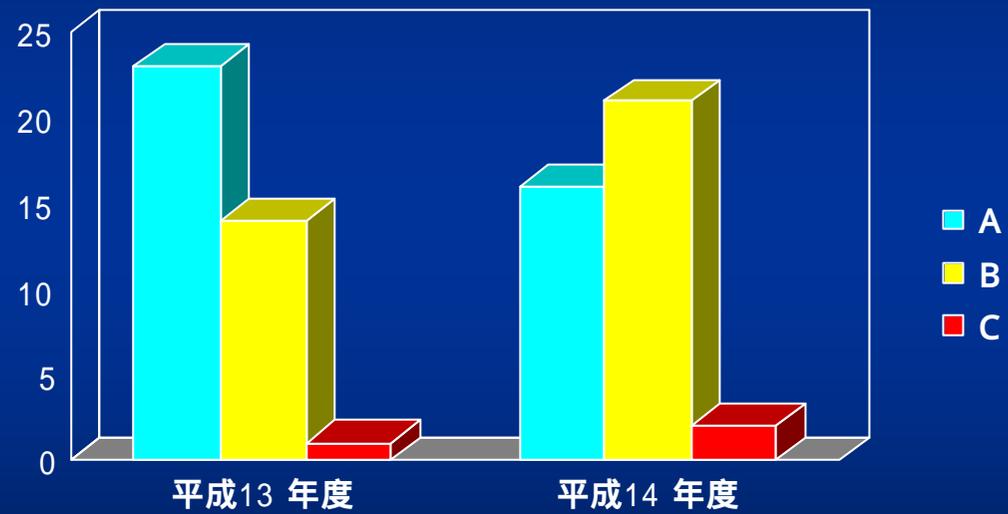
鍍銀染色・標本評価表

評価項目	配点
鍍銀に適した厚さに薄切されている	3
格子線維の染色性	3
核の染色性	3
合計	9



鍍銀染色

鍍銀染色評価 (昨年度との比較)



平成14年度千臨技病理検査研究班精度管理総括

今回の精度管理調査は44施設の参加を得て、染色標本の評価およびアンケート調査を行った。染色標本評価については、各項目の評価点と合計評価点にくわえ、各染色について総合評価としてABCの3段階評価を行った。

評価結果

HE染色は、全施設で診断に支障のない標本が作製されていたが、数施設で共染のためコントラストの低下を認めた。PAS染色では組織中のグリコーゲン流失により、配布した材料による施設間差が認められた。

膠原線維染色は、共染を伴う施設を認め、さらに膠原線維の染色性が悪い施設を認めることから、根本的に操作手順を指導する必要性があると考えられた。鍍銀染色では、細網線維と膠原線維の染め分けがなされていない施設を認めた。また、数施設は格子線維の染色性が極めて悪かった。

今回の提出臓器にも問題はあると考えるが、各施設で酸化時間、鍍銀時間等を含めた反応時間の検討を行う必要性があると考えた。